

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員で作った理念がある。入居者の方へ笑顔で接しその人らしい生活を送れるよう努めている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念の実践の為、入居者の情報を共有し日々専門的ケアを行っている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の方やご家族の方へ広報を発行し、入居者の方の様子を伝えている。また、行事等に招待している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	場所柄か中々交流する機会が少ないが年2回の行事に地元の団体を招いたり、地域の行事、お祭りなどに参加し地域の人々とのつながり、普及に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価後、改善計画を立て研修を行った。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の回数が(少)ない。運営推進会議の内容を知らない。</p>	<p>どんな事を話合っているのか知りサービス向上できる所は実施していきたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当部署へ運営状況の報告をし、改善点や制度の解釈など詳細な点を確認するようにしている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職場内研修で地域権利擁護事業について外部講師を招き制度について学んだが活用する機会は現在無い。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会を行い学ぶ機会はある。虐待について職場内研修を行った。目安箱を置き職員同士防止に努めている。研修等で学ぶ機会があり、職員それぞれが防止に努めている。</p>	<p>目安箱を設置しているが、職員が少人数の為個人名が特定される恐れがあり使用する人が無い。他の施設の事例を題材として自分たちのサービスと照らし合わせてどんな事が虐待につながるのか具体的に話し合う機会があったらいいと思います。職員の言動や態度が入居者の方を傷つけたり、不快にしていないか考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>入世者の方が遠慮せずに不満や苦情を表明して下さるような働きかけを工夫すること。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が代わる時は、利用者の方に管理者が説明し紹介している。定年退職があったが、時々訪問していただき入居者のダメージが少ないと思われる。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各資格の取得に支援がある。内部、外部の研修を機会を設けている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に所属し、各研修に出向いた際に意見交換が出来るが、同地域で同業者との交流をする機会は殆ど無い。</p>		<p>他のグループホームの職員と話す機会があればいいと思う。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会、交流会等をしている。</p>		<p>職員がお互いを理解できるようより良いコミュニケーションが取れるよう努力したい。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>施設運営を担う一員であることを認識してもらうため各委員会や業務分担、事業計画、報告書の作成を担当することにより意欲の向上に努めている。また毎月職員会議で収入額の確認を全員で行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談受け付け時、自宅訪問時に話を伺っている。面会時に家族へ必ず聴いている。本人には普段の会話の中から何気なしに聴いて問いかけている。普段より本人、家族に話し合いを持っている。面会時に話を聴いている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>一人で解決出来ない時は、他スタッフと相談し見極め支援している。家族や本人が必要としているサービスを職員、計画担当者話し合い対応に努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新規入居者の方には、なるべく場に馴染んでいただけるよう接触を多く持つようにしている。面会時にも家族に多くを伺うようにしている。一番安心できることは何かを探し出す努力をしている。居室担当を設け家族と相談し入居者にサービス提供している。面会時等入居者の生活状況を家族に話している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の世代では知らないことなどを聞く機会を多くするよう心掛けている。時間を見つけ若い頃の話、生活等話しながら学んだりする支えあう関係を築いている。本人の出来る事は出来るだけ本人にして頂き一緒に騒いだりし関係を築いている。入居者本人の感情等を否定する事無く受け止め、ケアに生かしより良い関係を築けるよう努力している。</p>	<p>業務優先になる事が多く入居者の方とゆっくりと過ごす時間が少ないため、入居者の方とゆっくり過ごす時間を作り入居者優先になるよう業務内容の見直しをしてみたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するに当たり、家族の意向を聞きだすことが上手くできていない。本人の解らない部分等があれば家族に聞き出し支えていく努力をしている。趣味等、日々の生活を家族の人に伝え共に本人を支える関係を築いている。家族から話を聞きその思いを把握できるよう努めている。		家族の意向を伺うときの質問の仕方などを変えより多くの意見を引出したい。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係については職員の側から聞きづらい面もあり、積極的に聞かないことが多い。今までの関係がどのようなものであったのかを把握するようにしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状の送付は支援している。馴染みの場所へ希望したときに行けるような支援は行っていない。団体での行動が多く個人での行動(外出)することがなく、入居者一人ひとりの希望や意見が活かされない。入居者の方が遠慮していることが多い。会話の中で馴染みの人や場所は聴くことができるもその後の支援ができていないと思う。入居者の友達や親類の人に「今度来て下さい」とか声掛けしている。地域行事(祭典等)に参加し地元の方と会う機会を持つようにしている。		買い物以外に利用者の希望する所へ個々に外出する支援をしてみたい。気軽に外出できる雰囲気や環境をつくる。少人数で外出する。手紙や電話をしやすいよう声掛けをし、出来ない方には職員が代理をする。許される限りの範囲で馴染みの人や場所へいけるよう支援に努めたい。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いを認め合えるよう個々の出来ることを見出す取り組みを始めたが中断している。入居者が興奮してきた時等、少し間を置き本人と話し合いし、落ち着いてから二人の間に入り話し合いを持っている。入居者同士の人間関係を把握し孤立する事は無い様職員が間に入り皆が会話できるようテーブルは位置や環境を整えている。個々の場所がある為、好きなようにしている。		取り組みを再開したい。お互いの良い所を見つけ出し誉め合うように努めたい。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約解除者の多くは他の介護保険施設入所や死亡のケースであるが、他施設入所の際は入居者やご家族の情報を提供し、疑問点があれば相談できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人本位ではなく、職員の意向を取り入れている場合があるが、なるべく一人ひとりの思いどおりになるよう意向の把握に努めている。本人と話し合いやれるところはやってもらい、出来ない時は一緒に作業している。本人や家族の希望を聞きそれを受け止め意向の把握に努めている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の聞き取りやまた面会時家族に尋ねたり本人に尋ねたりして一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境を把握しその人に合った生活が出来る様努めている。</p>	<p>一人ひとりの生活が今のままで良いのか常に検討していく必要がある。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>月毎のチェックシートがあり記入している。職員が個々で把握している内容が職員内で統一されていない。一日の過ごし方が殆ど変化なく何かもっと出来る事を探そう努める。一人ひとり日々話し合いを行い観察を行っている。申し送り等で把握するよう努めている。</p>	<p>各自が把握している情報を交換する機会を持つ。一人ひとりに合った一日の過ごし方、作業等をもっと見つけていく必要がある。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意向は聞き取りによるものが多く、話し合いということはされていない。介護計画は職員のみでカンファレンスを行って作成されている。介護計画に沿ってケアの統一化をしている。</p>	<p>可能な限り、細かい点まで家族の意見を伺い取り入れて行きたい。状態変化時等常に見直し検討し同じ方向でケアが必要。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じた見直しがされていない。変化があった場合に即、見直しがされていない。</p>	<p>計画の見直しの予定を作りそれに即して見直しをしたい。変化が生じたときの見直しを速やかにおこなえるよう方策を考えたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は行っているが、それを見返して気付きや工夫を得るということはされていない。排泄の記録が主になっており日常生活等の記録が少ない為、介護計画の見直しに活かされていない。		介護記録の書き方について学ぶ。ケアの実践、結果、気づきや工夫等をもう少し簡潔に記録する。排泄の記録が多く、日常生活の変化等の記録が少ないのでその事も忘れず記入していくよう努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と話し合い施設の昨日を生かした支援を行っている。通院や送迎等、必要な場合その都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の代表者が運営推進会議のメンバーである。ボランティアは本人の意向を殆ど聴く事無く施設の行事に合わせている。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	殆どが施設で提供できるサービス(提供しなければならない)であり、考えられるサービスは医療系であるが社会資源が制限されたりない場合が多い。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	施設完結型が多く包括支援センターと協働する機会が無い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員が係りつけいである大畑診療所への受診を支援している。他科へは本人や家族と話し合いを持ち適切な医療を受けられる体制を作っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルヘルス科の受診(往診)の支援をしている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員常勤であり、健康管理や通院の支援している。また日々の情報を看護職員と共有し支援している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、医療機関へ出向き入院時の様子等は詳しく情報交換等している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応は検討されていない。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設内では設備や人員が重介護や終末期へ対応できない。また訪問看護等社会資源が制限されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>職員同士の情報を共有しあい、住み替えのダメージを防ぐことに努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報など親類の人でも情報を漏らさずプライバシーや誇りを大切にしている。本人のプライバシー、自尊心を損ねるような言葉掛けをしないよう気を付けている。記録等は職員室内に保管している。</p>		<p>耳が遠い肩も居る為、プライバシーを守れない事も多いので、居室誘導したりし言いかけていきたい。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>なるべくわかりやすいよく説明しようとしているが、理解されていないときは、別の言葉を使うなどしている。職員サイドの思いで支援していることがあり、入居者の方が重荷と思っていることがある。自己決定のできる入居者には思いや希望を聞き入れ自分で決定して頂いている。やりたいことや希望を聞き自分出来るものは自己決定してもらい日々の生活をして頂いている。</p>		<p>入居者の方と一対一で話す。支援の仕方について学ぶ。自己決定出来るも意思疎通が上手く出来ず、トラブルになる事もあるため、上手く伝わるよう努力する。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一部、本人のペースを守っている。自ら希望を表さない方の過ごし方について十分に検討されておらず、日課に沿った支援しかされていない。職員側の都合が優先し入居者の方が遠慮して合わせてくれる事が多い。その日の過ごし方を聞いていない。職員が希望を聞き支援するも入居者より「おめどさまかせる」と話すことがある。</p>		<p>対応に柔軟性を持たせ、職員も入居者も自由に動ける様にする。入居者の方の遠慮が少しでもなくなるように声を掛ける。一人ひとりの余暇の過ごし方の支援についてもっと検討したい。朝食時、本日の予定を話し、その日をどう過ごしたいと思っているか聞く。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>全員同じ理容師をお願いしているが、髪型の好みなどはその方に伝えそのようにして頂いている。理髪は来るが本人の望む店には行けていない。</p>		<p>外出時等多量の化粧はしてあげたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれその人に合った手伝い等出来そうな事をお願いしている。個々の能力に応じ、調理の下準備や皿拭きを行う機会が増えた。		盛り付け片付け、配膳と出きる事を把握し出来る事を手伝って頂く。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望を表せる方については支援している。職員が管理している物が多く日常的には楽しめていないように感じる。買い物時本人が望んだ物を買ってきたり、一緒に買い物に行ったりしている。飲みたい人はホールにていつも飲酒、喫煙できるようにしている。嗜好調査を行い、本人の希望に沿えるようにしている。		職員側から声を掛けたり、勧めてみる。管理をしすぎない。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録、チェック表などにより、排泄のパターンを把握するようにしている。尿意が無い人や感じにくい人には過剰なトイレ誘導をしている。排泄後の清拭をホットタオル使用し気持ちよい排泄の支援をしている。なるべくトイレでの排泄を目指しているが、健康状態が悪化している場合はやむを得ずオムツをする事がある。		状況に応じた排泄介助を行う。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めている。「あかすり」を希望する方がいる。曜日や時間は決まっているため、希望どおりは行えへはいない。入浴剤を用いているいろいろな種類で楽しんでいただいている。その日の体調により変更も可能である。		月1回でも「あかすり」の日を設けてゆっくり入浴できないか希望者だけでも。決った日程の中でも柔軟な対応をする。入居者一人ひとりの入浴の曜日、順番まできっちり決っているので入浴日の中で好きな曜日、順番で入れればよいと思う。入居者の好む時間帯できれば夜間入浴を実施したい。月1回希望者のみ温泉もやってみてはどうだろうか。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、横になって休んでもらうための支援が一部の方にしかできていない。自由な時間に休息できるようにしている。消灯時間は決まっているが、入居者が望めばいつでもホールで過ごす体制が整っている。畳の間やソファで事由に休めるようになっている。		休息が必要と思われる時に安心して横になってもらうような働きかけをしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しいことが把握できていない。1日の仕事が決まっているので分散し入居者にやってもらっている。畑作り、収穫、花壇作りの手伝い料理のしたごしらえ、洗濯たたみなどを手伝いして頂いている。		一人ひとりの楽しみごと(従前に行っていたもの、今までやったことがないもの)を見つける。軽作業を当番制にし、入居者が見える所へ掲示する。個々の趣味活動への支援が出来る様にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している入居者は1～2名それ以外は施設管理。入居者は職員が管理していることに安心し、行事等外出して時にお金を使えるようにしている。購入品の希望を聞き購入している。また、残金や購入金額を知りたい入居者の方にはその都度知らせている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に沿うということは出来ていない。外出は行事の時で一人ひとりのその日の希望は聞いていないが夏場など職員が多いとき、希望を取り戸外に出掛けている。行事や買い物以外で外出する事無く、また、本人も出たがらない。		可能な限り希望を聞いて外出を支援したい。天候を配慮しながらその日に出掛けて見たいか聞き、外出の機会を多くする。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	望みを聞かないために言わないのかもしれないが、要望が無い。月に数回行事があり、また時にドライブもある。本人の希望を聞き家族に連絡している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より手紙書きたい。出したい等の事は聞かれず、年に一度の年賀状は毎年実施している。本人が希望すれば電話をかけられるよう支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間制限はしておらず、談話の場を設けている。面会時は、居室、ホールなど入居者、面会者の好きな場所で談話して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行ったが、全てを理解していない。一部ベット柵を2本使用しているが出来るだけ身体拘束を行わないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は19:00～6:45の間のみ行っている。日中は帰宅願望等のある入居す明が自由に玄関まで行き戸を開けても良いようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守り担当を置いている。夜勤帯では、一部安全の確保が困難であることがある。居室に居る時は少しの小窓より見守り等し昼夜安全に配慮している。建物が全体に見渡せるような造りにしている為、入居者の所在が把握しやすい。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、洗剤等は普段は目に付かない場所に保管している。一人ひとりの状態に応じてハサミや針等持って頂いている。包丁など刃物使用時は職員が見守っている。一人ひとりの状態に合わせ管理、保管をしているが危険と思う場合には職員側で預かっている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	窒息、誤薬については対策している。転倒防止については徹底されていない。避難訓練を年2回。歩行不安定な方への見守りや介助を行っている。服薬時名前の確認、介助をしている。		転倒防止の策について話し合いを持ちたい。吸引器等普段使わない物については定期的に取り扱いについて再研修をしてもらいたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	酸素ボンベ等の使用方法について学んだ。救命講習は受講したが応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っていない。		定期的に学びたい。応急手当初期対応の訓練を定期的に行う。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等年2回行っている。火災や災害時に併設施設へ通報できるシステムがあり職員が応援できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に説明している。リスク委員会を設けているが話し合うことが無い。		年2回でも現状の報告、今後の取り組みを職員会議で伝える。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護職員へ連絡、指示受け速やかに対応している。当日不在の職員には申し送りノートで情報の共有に努めている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、副作用について周知されていない。服薬までに3回確認を実施し誤薬防止に努めている。個々のケースファイルに処方内容を保管しておりいつでも確認できる。服薬時は必ず名前を確認し飲み込んでいるか確認している。		新しい薬が出た時等に説明をしてもらいたい。
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体を動かす働きかけ。薬の服用が主である。水分補給を勧めたり、排便表を作成しチェックし予防に心掛けている。		便秘に対応する飲食物についての理解を深めたい。軽い体操又はレクリエーションの回数を増やす。食事については工夫されているが、身体を動かす働きかけがないため、まず職員が学び入居に教えていく。便秘体操を行いたい。
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの支援をしている。月水金の義歯洗浄剤使用。就寝前嗽薬使用し嗽施行。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取の少ない方への対応を考えたものの十分にされていない。誤嚥のないようミジン切にしたり一人ひとりの食事を工夫している。併設施設の栄養士に毎月献立を確認しバランスのとれた食生活をできるように努めている。		水分摂取を促す方法を更に工夫していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嘔吐物の処理法を統一している。年に1回感染症対策委員会による職場内研修を施行。外出時の手洗い、嗽を行っている。手すり等人の触れる所は毎日ハイターを使い拭き取している。		年2回でも現状の報告、今後の取り組みを職員会議で伝える。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮で安全な物を確認し週2回調達している。危険であると思われる食材は破棄している。調理器具等1週間に1度除菌を行い衛生管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節等の花壇の花植え。玄関前にはプランターや花畑を作り明るくやわらかい雰囲気作りをしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに装飾を買って季節感を取り入れているが生活感を取り入れていない。		生活感については、皆で過ごす所ではなく、各居室から取り入れていく。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席、ソファー席、畳敷き等分かれている。レクリエーションや誕生会等気の合った方同士を近い席に座って頂いている。		食事席が決まっているために所の席に他者が座りづらい状況であり、誰でも座れるような雰囲気作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なるべく使い慣れた物を持って来て欲しいと家族には伝えている。家族の写真や位牌を持ち込んでいるがそれ以外の物はほとんど部屋に無い。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>室温計を取り付け調整している。冬季加湿器使用。こまめな換気や入居者の状況に応じて温度調節に努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の方が毎日使う物は手の届く高さに置くようにしている。トイレやホール内にも手すりを設置している。また、浴槽は階段が付いており身体機能を生かして安全に入浴できている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>掛け時計の位置を低くしている。日めくりカレンダーを下げている。トイレ、浴槽に表示している。居室の表札を低くしている。見当識障害がある方にもわかりやすいようにトイレや居室に目印や装飾をしている。各居室に毎月行事等を入れたカレンダーを貼っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>必要に応じてテーブル等の移動をし、スペースを確保している。七夕等の行事の飾りつけ以外で楽しむことが殆ど無い。</p>		<p>職員が声掛け、飾り付けの援助が必要である。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に特徴的な実践事項は無いが、入居者、家族が安心して任せることが出来る施設運営を目指している。併設の特養で行われる地域交流に参加したり、メンタルヘルス科医師往診、理学療法士の指導、栄養士の栄養指導、合同職場内研修等の協力が容易に得られる。